

連載

鉄道写真家 櫻井 寛

列車で行こう!

Let's go by train!

Railway-Photographer Kan Sakurai



第5回 「京都丹後鉄道」で行こう!



京 都丹後鉄道には「丹後あかまつ」「丹後あおまつ」「丹後くるまつ」という松をテーマにした3種類の観光列車が走っている。「松の三兄弟」というわけだが、丹後あかまつは予約制カフェ列車で、車内ではドリンクや軽食などが販売される。丹後あおまつは予約不要、普通運賃のみで乗車できるリーズナブルな観光列車だ。そして、丹後くるまつは、金・土・日・祝日運行の予約制レストラン列車の車内で本格的なコース料理を味わうことができる。丹後くるまつ「モーニングコース」の始発駅は福知山駅。午前10時08分、明智光秀ゆかりの福知山城をバックに出発進行。発車してしばらくすると朝食のサービスが始まった。メニューは地物野菜をブレンドしたフルーツ&野菜のフレッシュジュース、ローストビーフのクロワッサンサンド、丹波鶏のハムや野菜をトッピングしたゆで卵、地元産野菜のフレッシュサラダなど、おいしくて健

康的な朝食である。丹後くるまつでは、モーニングコースのほか、ランチコースとスイーツコースが設定されているが、どのコースも大満足の内容だ。

京都丹後鉄道きっての絶景区間といえば、全長550mの由良川橋梁であろう。丹後神崎～丹後由良間でこの長大な鉄橋を渡るのだが、西舞鶴から天橋立に向かう場合は、進行方向左側は由良川で、右側には日本海が広がる。川幅が広いので列車はあたかも海の上を走る気分だ。なお、由良川橋梁では一般の列車は通常で通過してしまうが「松の三兄弟」は写真撮影がしやすいようゆっくり走ってくれるのだ。さらに丹後由良駅を過ぎて奈具海岸に差しかかると、眼下に紺碧の日本海を望む。そして右手前方に日本三景「天橋立」を眺めつつ天橋立駅に到着となる。

京都丹後沿線のお勧めの宿は「天橋立ユースホステル」で決まり!



鉄道写真家 櫻井 寛

1954年長野県生まれ。鉄道員を目指し昭和鉄道高校に入学したが、在学中に鉄道写真の魅力にとりつかれ写真家に転向、日本大学芸術学部写真学科卒。出版社写真部に15年間勤務。90年にフォトジャーナリストとして独立し、今日に至る。93年、航空機を使わず陸路・海路のみで88日間世界一周。94年『鉄道世界夢紀行』で交通図書賞受賞。旅した国は95カ国、渡航回数は250回超。写真集『列車で行こう! The Railway World』(世界文化社刊)など著書多数。日本写真家協会、日本旅行作家協会会員。東京交通短期大学客員教授。

